

2022年度希望の郷拠点事業計画

〔老人デイサービスセンター希望の郷〕

I. 事業方針

- (1) 一人ひとりを個人として尊重します。
- (2) 長年住み慣れた地域での生活の歴史を大切にします。
- (3) 利用者の個性とニーズに応える個別処遇を行います。
- (4) 充実感と満足感をえられるような支援を行います。
- (5) 医療機関や町村及び関係機関との緊密な連携体制を保ちます。
- (6) 利用者、家族との信頼関係を築きます。
- (7) 職員の介護力の強化、向上に努めます。
- (8) ケアプランに沿った通所介護計画や個別機能訓練計画、運動機能向上サービス計画を立て実施し、利用者様の自立に向けた生活機能の維持向上に努めます。

II. 事業目標

1. 利用者サービスの充実

在宅生活を継続するにあたって、地域での生活を重視したサービスの提供を行うことで自分らしくいきいきと自立した生活が送れるように支援致します。

	指標の名称	算出式	指標値
KGI (重要最終目標)	目標利用者数 (定員 25 名)	7,700 名 × 0.86	6,622 名

2. 地域社会との関係性強化

地域ボランティアの受け入れや地域行事の参加、介護等の相談の受け入れをし、地域住民の多様なニーズに対応した地域に根ざした施設を目標にします。

	指標の名称	算出式	指標値
KGI (重要最終目標)	地域ボランティアの受入数	—	24 名

3. 生産性の向上

多職種連携の体制を整え、新たな加算取得をめざし、収益アップに努めます。また、人財育成による職員の業務遂行能力向上と業務の効率化を目指します。

	指標の名称	算出式	指標値
KGI（重要最終目標）	人時生産性	44,029 千円 ÷ 18,944 時間	2.32 千円
	労働生産性	44,029 千円 ÷ 9.95 人	4,425 千円

*算出式：*算出式：人時生産性＝付加価値額 ÷ 総所定労働時間

総所定労働時間＝所定労働日数（238 日）× 8H × 総職員数（常勤換算数）

労働生産性＝付加価値額 ÷ 総職員数（常勤換算数）

Ⅲ. 事業計画

[サービス計画]

1. 利用者（入所者）計画

(1) 利用率・稼働率計画（2022 年度末）

定員数	計画数	利用率・稼働率 (KPI)
7,700 名	6,622 名	86%

開所予定日数 309 日

1 日定員数 25 名

(2) 利用者構成計画（2022 年度末）

介護度・クラス別等	計画数	構成割合
健幸サロン	5 名	9.0%
事業対象者	5 名	9.0%
要支援 1	5 名	9.0%
要支援 2	6 名	10.0%
要介護 1	20 名	34.0%
要介護 2	10 名	17.0%
要介護 3	5 名	9.0%
要介護 4	2 名	3.0%
要介護 5	0 名	0.0%
計	58 名	100.0 %

2. サービス実施計画

(1) 介護保険関係サービス

担当：看護職・介護職・リハビリ職・調理職

実施内容（具体的内容）	取得加算
介護本来の目的である利用者の自立を促すために、関係する専門職種で連携を図ることによりデイサービスの施設機能を十分に発揮します。自立支援に向けて取り組む管理的項目は以下のとおりとします。各管理項目においてマネジメントサイクル（PDCA）を展開することにより、ご利用者様の自立度を高めケアプランにおける生活目標の実現を図ります。	科学的介護 推進体制加算

〈自立支援ケア〉

実施項目	目的・実施内容	介護計画	KPI	関係加算
水分管理の実施	ご利用者様毎の最適水分摂取量をデータ把握し、毎回利用時に摂取していただくことにより心身状態の改善に繋がっていきます。	基本摂取量は、事業所内及びご家庭で1日1500mlとし、ご利用者様の状態に応じて目標摂取量を設定します。 ご利用者様に合った摂取方法を講じることにより実施目的の達成を図ります。	目標摂取量の達成 (100%)	
運動管理の実施	ご利用者様毎の最適な運動方法を把握し、毎回定期的に実施し、その状態をデータ管理することにより、可動域の改善に繋がっていきます。	ご利用者様の状態に応じた目標運動量・支援方法等を設定し、それにより可動域などの向上により目的の達成を図ります。	目標運動量の達成 (100%)	・個別機能訓練加算 I ・運動器機能向上加算 ・生活機能向上連携加算
排泄管理の実施	ご利用者様毎の排泄リズムを把握しトイレで排泄が行えるように支援します。	自立排泄による紙パンツの着用率の減少を図る為ご利用者様の状態に応じた排泄目標、支	紙パンツ着用率 ゼロ	

		援方法などを設定し実施目的の達成を図ります。		
体 調 維 持・改善 管理の実 施	ご利用者様毎の健康状態をデータ管理し、病態の維持・改善に繋がっていきます。	バイタルチェックの実施・ご本人様やご家族様から体調や日頃の様子等聞き取り早期対応を図ります。	状 態 維 持・改善率 (70%) 入院者数 (4%)	A D L 維 持等加算
入浴管理 の実施	ご利用者様の健康促進を図る為入浴管理を実施します。	ご利用者様の状態に応じた入浴目標、支援方法などを設定し、実施目的の達成を図ります。	入浴率 (100%)	入浴介助 加算Ⅱ
口腔衛生 管理の実 施	ご利用者様の口腔状態を把握し、摂食状態の改善、感染症予防に繋がっていきます。	ご利用者様の口腔状態に応じた支援方法等を設定し実施目的の達成を図ります。		口腔機能 向上加算
実施方法：本人、家族、看護師、介護職、ケアマネと連携しながら利用者の状態管理をそれぞれの専門的立場から実施し、KPI の達成を目指します。				

〈認知症ケア〉

実 施 項 目	目的・実施内容	介護計画	KPI	関係加算
認 知 度 管理	認知症状のあるご利用者様に対して、ご家族の状況、ご利用者様の特質等考慮し、可能な限り在宅生活を維持できるように担当専門職員によるケアを個別的に実施します。	ケアプランによる介護計画において、ご利用者様の状態に応じた認知改善目標を設定し実施目的の達成を図ります。		・認知症 加算 ・若年性 認知症利 用者受入 加算

〈給食・栄養ケア〉

実施項目	目的・実施内容	介護計画	KPI	関係加算
栄養管理	ご利用者様毎の摂食状況や毎月の体重測定から栄養状態をデータ管理すると共に、健康の維持、増進・栄養状態の改善に繋げ生活の質の向上を図ります。	ご利用者様の状態に応じた栄養目標を設定し実施目的の達成を図ります。		口腔・栄養スクリーニング加算

(2) 介護保険外サービス（高齢者福祉事業所の場合）

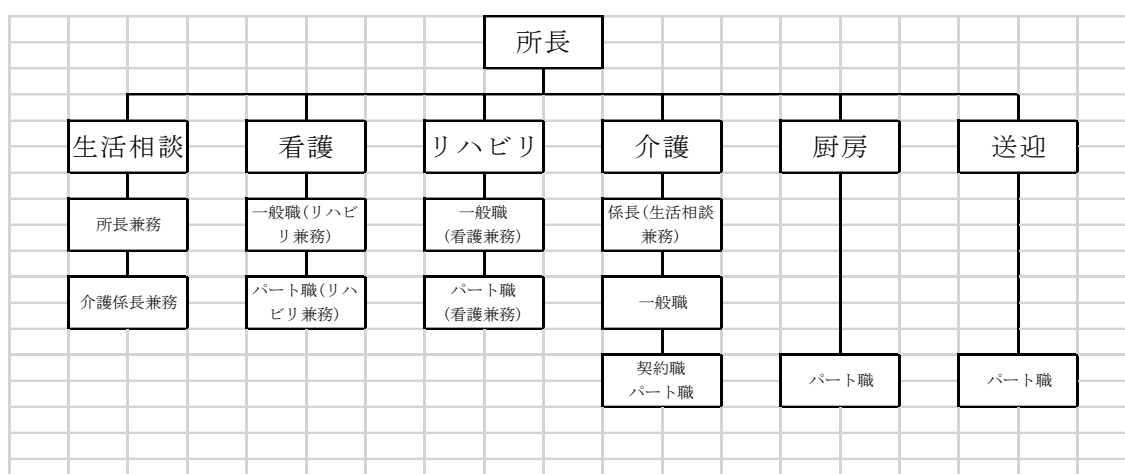
担当：看護職・介護職・リハビリ職、調理職

〈健幸サロン事業〉

実施内容（具体的内容）	KPI
介護認定を受けていない方を対象に、定期的に利用をすることで地域の方の憩いの場所の提供をします。また利用回数が決まっている介護予防・日常生活支援総合支援の方の追加利用で、在宅での生活が維持できるように機能訓練等のサービス提供を行います。	利用者数 5名を維持

3. 組織及び人員体制計画

(1) 組織体制計画



(2) 人員体制計画 (2022 年度末)

(単位：人)

役職名	2021 年度実績		2022 年度計画	
	正職	非正職	正職	非正職
所長	1 (0.5)		1 (0.5)	
生活相談員	(1.0)		(1.0)	
看護師	1 (0.7)	1 (0.3)	1 (0.7)	1 (0.3)
機能訓練指導員	(0.3)	(0.2)	(0.3)	1 (0.7)
介護員	2 (1.5)	6 (3.5)	2 (1.5)	6 (3.15)
厨房職員		4 (1.5)		4 (1.5)
運転手		2 (0.3)		2 (0.3)
計	4 (4.0)	13 (5.8)	4 (4.0)	14 (5.95)

カッコ内常勤換算数

管理者（所長）及び介護員 1 名は生活相談員、看護師は機能訓練指導員を兼務。

[人財育成計画（研修計画）]

(1) 事業所内研修

研修名	対象者	予定人員	研修内容
避難訓練・消火訓練	全職員	6 名	火災時、安全に避難できるように訓練を行う。また、消火の仕方、消火器設置場所等再確認します。
認知症の理解	全職員	6 名	認知症の利用者に対する適切なケアが行えるよう、認知症及び認知症ケアに関する知識や対応方法等の理解を深めます。
感染症対策について	全職員	6 名	感染症・衛生管理の知識と心構えを学び、予防の重要性を再確認します。
送迎について	全職員	4 名	安全に送迎が行えるようにマニュアルの再確認を行います。
救急法講習会	全職員	6 名	心肺蘇生法等について学び、迅速に救急処置が行えるよう知識・技術を身につけます。

リスクマネジメント	全職員	6名	介護現場で生じる可能性のある事故を想定し、その対応方法を学び予防の重要性について再確認します。
虐待防止について	全職員	6名	マニュアルに沿って虐待防止と発見時の対応について再確認を行い、職員の共通認識を図ります。
サービス検討会	全職員	6名	年2回アンケートを実施し、それについて分析しサービス向上を図ります。
不審者対応について	全職員	6名	不審者の対応方法を学び、マニュアルの再確認を行ないます。

(2) 事業所外研修（外部派遣研修）

研修名	対象者	予定人員	研修内容
認知症基礎研修	介護員	2名	認知症介護について、基本的な知識・技術、実践する際の考え方を身につけます。
口腔ケア研修	看護師 介護員	2名	口腔ケアに関する基本的知識や技術を学び、疾患予防及び病状悪化防止に取り組みます。

*資格を有しない者を対象に認知症介護基礎研修を受講する。

(3) 事業所間研修

研修名	対象者	予定人員	研修内容
接遇・マナー研修	全職員	4名	日々の対応を振り返り、法人職員としての対応の在り方を理解し業務に反映させます。
ハラスメント研修	全職員	4名	ハラスメントをなくすことで一人ひとりの職員が相手を思いやり、心の健康が維持できる職員環境づくりを行います。
人権擁護研修	全職員	4名	権利擁護と福祉従事者の役割、権利侵害としての虐待防止策を図ります。

虐待防止について	全職員	4名	虐待について多様な考えに触れると共に虐待に対する理解を深め、不適切なケアをなくします。
----------	-----	----	---------------------------------------------

[地域との関係強化計画]

実施事項	実施内容（具体的内容）	KPI
ボランティアの受け入れと地域交流	地域住民及び学生ボランティア受け入れ、学生の職場体験の実施や保育所交流等も積極的に実施していきます。福祉課と連携を図り、体操やレクリエーション等の情報提供を行います。	

[生産性向上計画]

(1) 稼働率向上計画

稼働率を 2022 年度 86%へ向上させていきます。

(2) 新加算取得計画

取得加算（実績）	取得加算（計画）
入浴加算	入浴加算Ⅱ（既存）
個別機能訓練加算Ⅰ	個別機能訓練加算Ⅰロ（既存）
運動器機能向上加算	運動器機能向上加算（既存）
サービス体制提供強化加算Ⅰ	処遇改善加算Ⅰ（既存）
処遇改善加算Ⅰ	特定処遇改善加算Ⅱ（既存）
特別処遇改善加算Ⅰ	事業所評価加算（既存）
	認知症専門ケア加算Ⅰ（新規）
	サービス体制提供強化加算Ⅱ（新規）
	科学的介護推進体制加算（新規）
	生活機能向上連携加算（新規）
	口腔・栄養スクリーニング加算（新規）
	口腔機能向上加算（新規）
	ADL等維持加算（新規）
	若年性認知症利用者受入加算（新規）
	生活相談員等配置加算（新規）
	中重度者ケア体制加算（新規）

[施設等整備計画]

整備分類	実施内容	実施目的	実施時期
固定資産 器具消耗品	大浴場及び調理室エアコンの交換	長年使用しているためエアコンの効果もなく、又感染症対策の為空気清浄化が行えるエアコンに交換致します。	6月
固定資産 器具消耗品	洗濯機交換	長期使用により機能の低下がみられます。(洗濯途中停止する。) 修繕するも部品の在庫がないため買替を致します。	
備品	毛布・タオルケット・枕等午睡セットの買替	長期使用により汚れやほつれが生じてきている事や枚数など不足しているため購入致します。	
賃借料	携帯電話	災害及び送迎時等の緊急時に備え購入致します。	4月
建物整備	雨樋修繕工事	長期使用や雨風による破損があり、雨樋の機能が損なわれたため修繕致します。	
建物整備	耐震診断	地震に対する安全性や倒壊・崩壊のリスクを確認致します。	

「積立計画」

(単位：千円)

積立目的	積立額
再建設	4,800
大規模修繕	
その他	200
計	5,000

[感染症・災害への対応力強化計画]

感染症・災害への対応力を強化するため、BCP に基づくシミュレーションや訓練を実施します。

[特記事項]

第三者評価受審予定。

以上